

造影検査について

造影剤を用いる事で、より詳細な情報を得る事が可能となります。

MRI・CT共に静脈注射にて体内に入れていきます。

造影剤は副作用の少ないものが開発され安全な薬ですが、ごく稀に、副作用発症の可能性もございます。造影剤注入中は、看護師が患者様の横で様子を観察しています。撮影中もモニタリングを行っております。もし異常を感じたら、

すぐにお知らせください。副作用としては、吐き気・嘔吐・熱感・動悸などが挙げられますが、確率は約1%以下です。

ただしアレルギー歴、特に気管支喘息（ぜんそく）、重い腎機能障害、造影剤の副作用歴がある場合には副作用の危険性が高くなります。

造影検査の場合は、事前に問診及び腎機能の確認（3カ月以内の採血結果がございましたらご持参ください）を行ってから検査施行となります。各検査ともに複数の造影剤を用意し、副作用の既往歴や腎機能に合わせて、使い分けを行っております。

当院では、国内外の最新の報告・ガイドラインをもとに造影剤使用指針を作成し、それに則って安全な検査施行に取り組んでおります。

MRI造影剤とは

MRI造影剤とはガドリニウム製剤で、腕の静脈から約5～20mlを注射します。

さらにMRI造影剤にはリニア型とマクロ環型に分けることができます。当院では、より安全性が高いとされているマクロ環型の造影剤を使用しております。

※肝臓の造影検査では造影剤の特性上、リニア型を使用することもあります。

MRI造影剤の種類

- ・ガドビスト（バイエル薬品株式会社）
- ・プロハンス（エーザイ株式会社）
- ・EOB・プリモビスト（バイエル薬品株式会社）

MRI用経口消化管造影剤とは

胆道膵管撮影における消化管陰性造影剤のことです。これを使用する事で、胃や腸管にある消化液の信号を抑え、

胆道や膵管の抽出能をあげることができます。

検査直前に250mlの塩化マンガン四水和物（ボースデル）を飲んでいただきます。わずかに甘く、無臭のお薬です。

副作用として、軟便（7.5%）・下痢（2.3%）等報告があります。

MRI用経口消化管造影剤の種類

- ・ボースデル内容液10（協和発酵キリン株式会社）

CT造影剤とは

CT造影剤とは、ヨード製剤で、腕の静脈から約50～100mlを注入します。CT造影時は、体が温かくなります

（人により熱く感じる事もあります）。これは副作用ではなく、造影剤注入完了後から、徐々に落ち着いてきます。CT造影剤に関しましては、併用注意な薬剤がございます。

[併用注意な薬剤はこちら](#) >

該当薬品がある場合は、休薬指示等がございますので、必ず申し出てください。

CT造影剤の種類

- ・イオパミロン370（バイエル薬品株式会社）
- ・イオパミロン300（バイエル薬品株式会社）
- ・オムニパーク350（第一三共株式会社）
- ・オムニパーク300（第一三共株式会社）